

【折々の季語 118 蜻蛉】

とぶさまもすこし昔のとんぼかな

田中裕明（『夜の客人』拾遺）

句集には入れられなかったが、この句の出された句会など、なつかしく思い出す。

初心の数年、個人添削を受けていたが、そのコメントに「米のとき汁や赤とんぼでいい句を見たことはありません。詠まない方がいいでしょう」とあって、やや驚いた。句会などでは「俳句に詠んではいけない言葉や内容などありません」とひろやかな包容力を示していたが、俳句に対して言葉に対して厳しい人でもあった。

「詠まない方がいいでしょう」という冷ややかな断定の言葉にはややたじろいだが、親心（師心？）をも感じたことだった。